

研修報告書No. 19

所 属：東京大学医学部附属病院 研修医

研修先：梶原町立国民健康保険梶原病院

津野町立国民健康保険杉ノ川診療所

私は、東大病院の研修プログラムで2016年2月の1ヶ月間梶原病院で地域医療研修を行いました。東大病院のプログラムでは地域医療は都道府県のみ選べるのですが、候補の中で訪れたことがないのが高知県であったため興味を持ち選択しました。高知県のイメージは暖かい南国のイメージであったので、梶原病院に決まりいろいろ調べると冬は雪がつもることもありとても寒い地域だと知って非常に驚きました。

梶原町は高知県西部、愛媛県との県境ちかくにあり、病院のある中心部は標高400メートルほどで、四国カルストの麓に位置しています。人口は4,000人弱で、そのうち高齢者が45%程を占めており、2030年頃の日本全体の高齢化率に相当すると言われていいます。梶原病院は町内に唯一の病床のある医療施設であり、町内にある2つの診療所にも梶原病院から医師を派遣しているため、実質的に隣の津野町の一部を含めた町民の医療を一手に担っています。医師は常勤で5名、自治医大卒の総合診療のできる先生方がいらっしゃいました。

梶原病院の先生方は「自分たちにできることは何でもやる」というスタンスで診療をされており、外来では風邪でも骨折でも外傷でも何でも診て、処置や検査もCVポート増設や甲状腺針生検、気胸のドレナージなど他の病院ではコンサルトしてやってもらうような処置や検査もされていたのが印象的でした。もちろん、梶原病院の資源や設備では手に負えないといった場合もあり、その場合には的確にその判断をし、高次の医療機関への紹介、搬送をさせていました。今回の研修期間中にも同じ日に心筋梗塞、腹部動脈瘤の2症例の搬送がありました。日中の晴天であったためヘリ搬送を行い、救急車で2、3時間かかる高知医療センターまで20分ほどで搬送できるとのことでした。搬送要請から迅速にヘリが到着し、患者さんが搬送されていくのを見て、高知県の救急医療体制の充実を感じました。梶原病院では日々の診療以外にも町民との関わりを重視していました。毎週木曜日にはケアプラン会というものがあり、病院スタッフと役所の福祉厚生関連の職員の方が集まって町民の中で問題を抱えている方の情報を共有し、対策を考えていました。今まで研修した病院ではこのような会議はやっていませんでしたが、この会で議題に上った患者さんの往診に行った時により具体的なイメージを持って診療できたという経験もあり、非常に有益な会議であると感じました。また、病院主催で集落の住民との座談会などを定期的開催しており、町民の方により利用してもらいやすい病院づくりを目指していました。院長はそれ以外にも町内の老人会などで講演をされ、町民に健康の指導、更には梶原町で最後を迎えるための **Death education** もされており、病院のみならず町全体で町民の「幸せな人生」を送ってもらうための努力を感じました。町民の健診受診率が全国トップレベルで高

いのもその一つの成果であると学びました。

研修期間中は往診についていたり、ヘリ搬送に同乗したり、外傷の処置をしたり、先生方の処置を見学したりとバラエティに富んだことを経験しました。印象的なことは多かったです。縫合処置をした患者さんを抜糸まで外来でフォローできたこと、エコー下筋膜リリースの実際を見学できたことは特に良い経験だったと思っています。

今回の地域医療研修は、上記のように地域医療の実際を経験するという意味で、成功しているモデルの一つである梶原病院で研修できたことは関心と知識を深める良い機会となりました。さらに、臨床研修を行うような規模の医療機関では研修医のうちにできないことも多い外来での患者さんのフォローやプライマリ・ケアを行えたという意味では将来の臨床で生きる経験ができました。もちろん、梶原の食事やお酒を堪能し、高知県の観光をできたのも非常にいい経験となりました。梶原病院の皆様、本当にありがとうございました。